

教科書編集部便り

移行措置期間の国語科

いよいよ4月、新年度から新学習指導要領実施を控えての移行措置期間が始まりました。弊社からは、すでに昨秋「移行措置資料」をお届けしていますが、ここで改めて「国語科」の移行措置について、簡単に触れておきます。

理科・算数は、文部科学省が予算措置をして、全児童に移行資料が配布されます。これは、現在ご使用の各教科書会社が作成し、検定に準ずる審査を受けたものです。

その他の教科は、各学校判断で移行に向けた授業をしてもよいということになっています。つまり、国語科では、従来の授業を続けていても、新学習指導要領に移行したとき支障はないということです。この際の学校判断とは、新学習指導要領の内容や考え方を先取りするかどうかということになります。

新学習指導要領「国語科」の内容や考え方に関するキーワードはいくつか挙げられ

ますが、代表的なものは、活用、思考力・判断力、言語活動、伝統的な言語文化、また、繰り返しによる基礎・基本の定着などでしょう。活用とは、全国学力調査にみられるように、日常生活において言語力が発揮できることですから、新聞・ちらしなどの読みや、グラフや図など非連続テキストの読み、レポートや手紙を書くことなどが含まれます。これらのうち、いくつかは既に現在の教科書にも材料があります。したがって、それらを用いて、思考力・判断力、活用力を培うことを強く意識した授業をしていただければ、新学習指導要領に向けての第一歩となるでしょう。

弊社「移行措置資料」は、そのような考え方で作成してあります。現在の教科書を使いながら、足りない資料を補いつつ、新しい方向の授業に役立てていただければと願うものです。

お知らせ

移行期関連資料について

弊社ホームページに、移行期関連資料が掲載されていますので、ぜひご活用ください。
光村チャンネル >> 「移行期関連資料」よりご覧ください。

<http://www.mitsumura-tosho.co.jp/Data/ikou/>

移行期の年間計画 (1～6年)	現行教科書の単元・教材について、時数や扱い方が変わるところをわかりやすく示した年間計画です。
移行措置資料付「学習材例」 (1～6年)	現行教科書の単元・教材の扱いに、新しい学習活動・指導内容を組み込んで、指導の展開例などを示しました。
移行期の指導に向けて(学年共通)	新学習指導要領の特徴や、移行措置の要点をまとめた資料です。
学習指導要領新旧対照表 (低・中・高学年)	新旧の学習指導要領を並べて表示し、変更された部分や、新規で加わった点をわかりやすく示しました。
移行期の指導のために (学年共通)	「古典を楽しむ」「知って安心『PISA 型読解力』」…など、新学習指導要領の特徴的な部分をピックアップし、図やイラストを交えて解説しました。